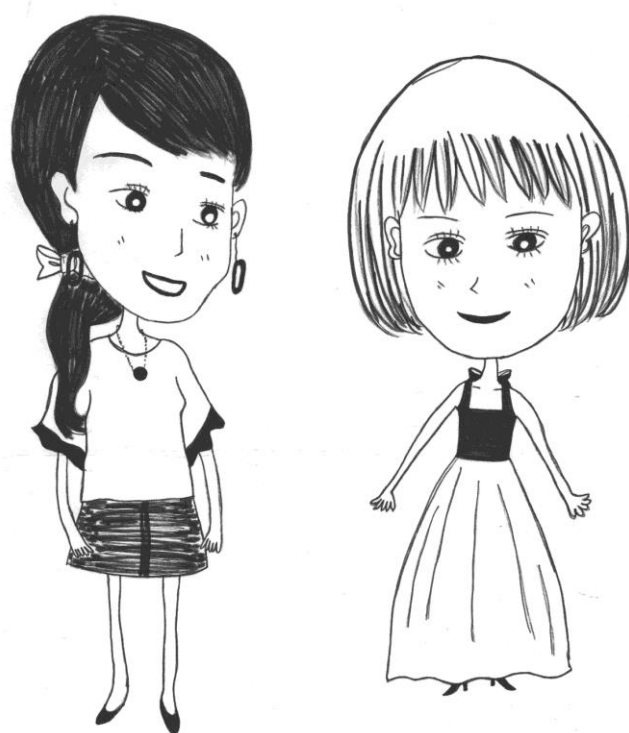


自信がなくても自分らしくできる

ピアノ講師1年生のための はんなり流☆ ピアノの教え方

第4章 レッスン3回目の内容



スカラー

■はじめに

この章では3回目のレッスンの指導内容に絞って作りました。

数回のレッスンをこなし、レッスンの流れや子どもとの接し方などわかってこられたでしょうか？

ここで1つあなたにお伝えしておきたいのですが、レッスン後、きちんとレッスンの復習をしておきましょう。特にどこまで教えたのか？ということについてはしっかりメモをしておくと、次回のレッスンがスムーズになりますよ！

3回目のレッスンの進め方ですが、基本的には初回・2回目のレッスンとさほど変わることはありませんが、常に子どもの反応を見ながらレッスンを進めていってくださいね。

では、実践に移っていきましょう(^o^)/

■ 目次

■はじめに	2
■目次	3
■レッスン3回目のスケジュールはこちら.....	4
■ Part1 ピアノの弾き方指導実践その③	5
必要な教材	5
宿題チェック	6
宿題のあり方	8
実際の進め方	9
■ Part2 音符の読み方指導実践その③.....	12
必要な道具	12
実際の進め方	13
■ Part3 リズムのたたき方指導実践その③.....	16
必要な道具	16
実際の進め方	17
参考動画.....	19
■おわりに.....	20
■規約	21

■ レッスン3回目のスケジュールはこちら

前回、第3章の「レッスン2回目の内容」はわかっていただけでしょうか？

次はレッスン3回目の内容に入っていきますよ。

●40分レッスン

※40分レッスンですが、レッスンノートへの記入や雑談をしたりする時間もあるので、レッスン時間は正味35分です。

項目	時間
①ピアノを弾く 宿題チェックと左手の練習	20分
②音符を読む へ音記号「ド」「シ」「ラ」を教える	10分
③リズムをたたく 音符を組み合わせてリズム打ち	10分

3回目のレッスンでは、**いよいよ左手の練習に入ります。**それとリンクして、**音符もへ音記号**を教えていきますよ！

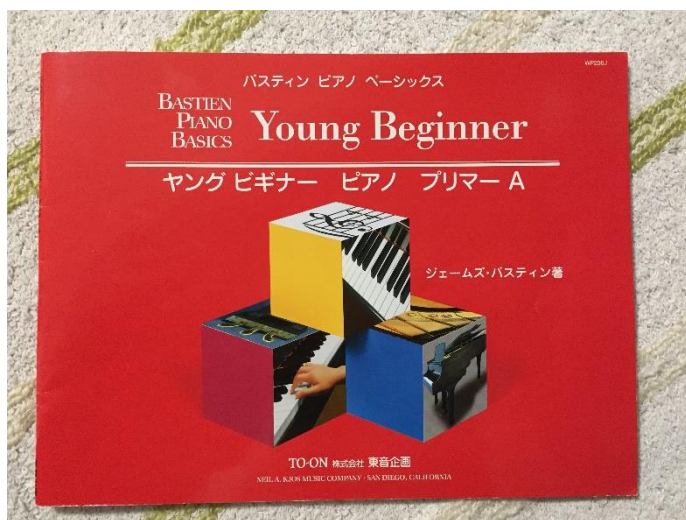
Part1 ピアノの弾き方指導実践その③

この章では、あくまで3回目のレッスン内容だけにフォーカスしてお伝えしていきますね。
まずは「ピアノを弾く 20分」のレッスン内容です。

いよいよ左手を弾いていきますよ。

必要な教材

「バスティン プリマーA」



宿題チェック

前回のレッスンの宿題2曲を見ていきましょう。

p14「ぶらんこで」

れんしゅうのしかた
1. おとのなまえをいながら ひきましょう。
2. リズムをいながら ひきましょう。
3. うたいながら ひきましょう。

On the Swing
ぶらんこで

あびて R.H. 1 2 3 4 5 5 5 5 5 4 3 2 1 1 1
On the swing I go so high. Then I come down from the sky!
あ が れ よ た か く ぶ ら こん こん こん か いー

●子どもへの説明の仕方

・「この間の復習だね。①音の名前を言いながら弾く②リズムを言いながら弾く③歌いながら弾く、の順番で弾いていこうね」と3段階に分けて弾いてもらいます。

・「ファの音がしっかり鳴らせたね。音の長さもきちんと数えられたね！」と合格させます。

* 合格の基準 *

ただどどしい指の形であっても、そこは触れず（子どもは楽譜に書いてある音の鍵盤を押すことで精一杯なため）、音の長さや指使いがあっていたら合格させます。

宿題のあり方

「宿題の出し方」については第2章でお話していますが、ピアノのレッスンというのは、宿題チェックがメインになります。

塾の宿題のように〇×をつけてさっと終わらすようなものではなくて、宿題の答え合わせをじっくりやっていくことなんですね(*^*)

なので、よく練習をしてくる生徒やと、宿題チェックの時間が少なくすんで、その分、新しい曲の説明や他のことに時間をとることができます。

逆に全然練習ができていない生徒（もしくは不器用な生徒）やと、宿題チェックだけに時間がとられて、新しい曲をする時間がなくなったりします。まあ、まだレッスン3回目で練習不足の子はいないとは思いますが(;´▽`)、もし教えていて「この子、もしかして不器用なのか!？」と思うような生徒であれば、宿題を減らしたりするなど宿題の量を調整してください。

お家できちんと宿題ができていないかそうでないかで、上達のスピードが違ってきます。なので、生徒さんには、お家でピアノを練習することが習慣になるように伝えてあげてください。

*** 指導のポイント ***

この章から、左手だけの練習に移るのですが、へ音記号が読めなくても楽譜に音の名前が書いてあるので、子どもは弾くことができます（へ音記号の読み方については、この後の「音符を読む」でしっかりやっていくので大丈夫です）。

左手（利き手が右手の場合）の指は弱いものなので、小さな音で弾いていても合格させます。体の成長とともに鍵盤を押す力がついてくるので、無理に大きな音で弾かなくても大丈夫です。

また私がいつも子どもにやってもらうことなのですが、**楽譜に書き込みをしてもらいます**。例えば、新曲「くも」なら、「**2拍伸ばす音符はどれかな？ 2分音符をえんぴつで囲ってごらん**」と言って、子どもに書き込みをしてもらいます。自分で書き込みをすることで、譜読みの勉強になっているんですね。これを続けていくと、自分の力で楽譜が読めるようになっていきますよ！

※楽譜に書かれている「ABC」のアルファベットの説明はまだしません（レッスンを開始して1カ月ほど経ってからが良いと思います。まずは、音符をきっちり覚えてもらうことが優先です）。

*** 宿題の出し方 ***

今回のレッスンで弾いた p12「くも」の復習と、新たに p13「ハローウィーン」を宿題に出します。



子どもへは「p12 はとまらずにスラスラ弾けるようにお家で練習してこようね。3種類の弾き方（①音の名前②リズム③歌詞）でやってくるんだよ。新しく p13 を宿題に出すね。これも 3種類の弾き方でやってきてね。どっちも**左手だけ**で弾いてくるんだよ」と伝えます。

.....

p13 まで進めたら p16 まで飛びます。引き続き左手だけの練習をやっていきますよ(^-^)

これで3回目のピアノの教え方は終わりです。

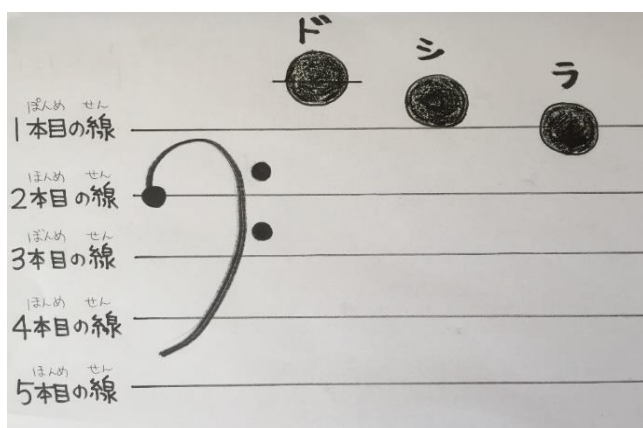
Part2 音符の読み方指導実践その③

レッスン3回目では、いよいよへ音記号を読んでいきますよ！

へ音記号は「ド」「シ」「ラ」の3つだけ教えます。

では、「音符を読む10分」のレッスン内容を解説していきます。

必要な道具



・へ音記号「ド」「シ」「ラ」を書いた紙

音符はできるだけ大きく書いてあげると子どもは見やすいようです(‘ω’)

※左のような事前に用意した紙でも良いし、何も書いていない紙に子どもの目の前で音符を書いてあげても良いと思います



・「ポケモン おんぷカード」

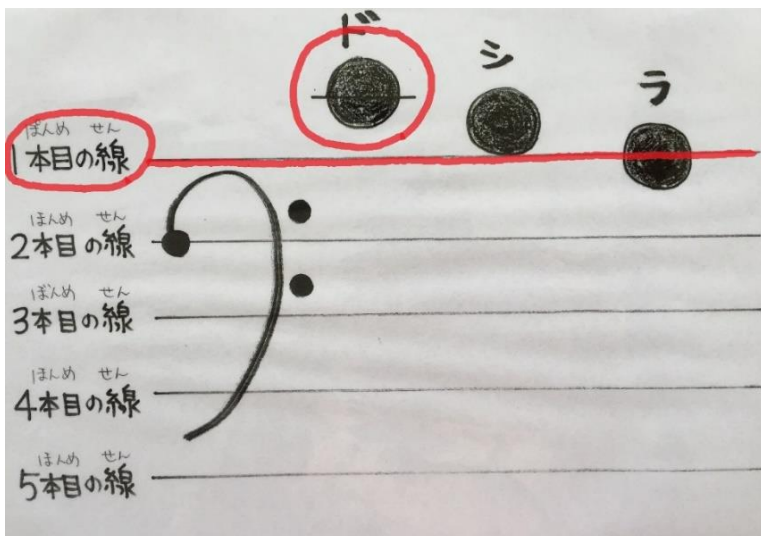
音符を教えるときに必須です

実際の進め方

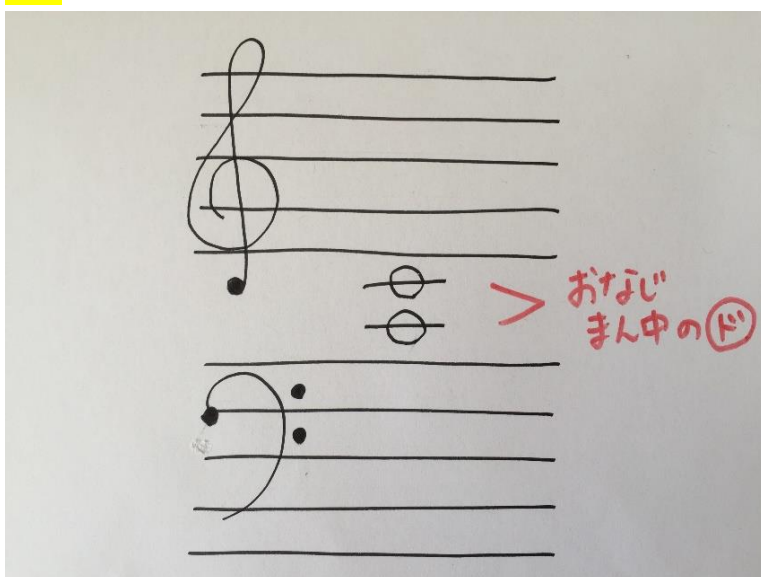
「ド」の説明

●子どもへの説明の仕方

「これがドだよ。1本目の線より上の線につきささっているね」と言います。



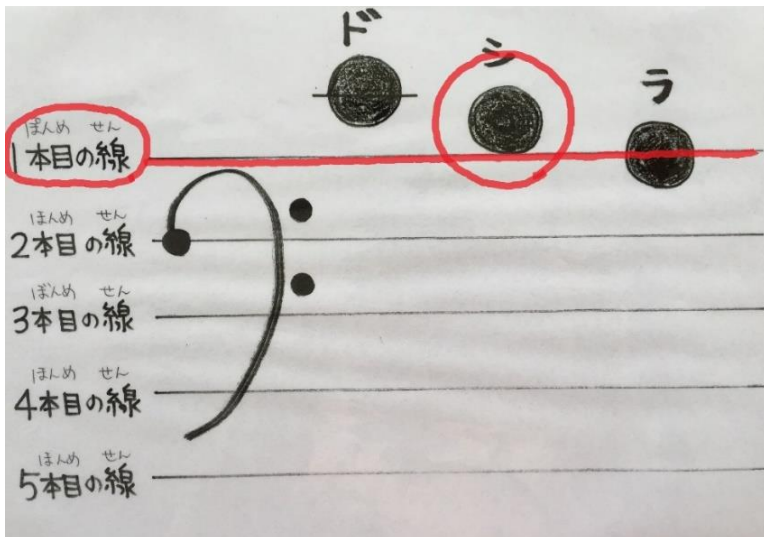
※このタイミングで、へ音記号の「ド」とト音記号の「ド」は同じ場所を弾くことを伝えま
す。←ものすごく大事です！！



「シ」の説明

●子どもへの説明の仕方

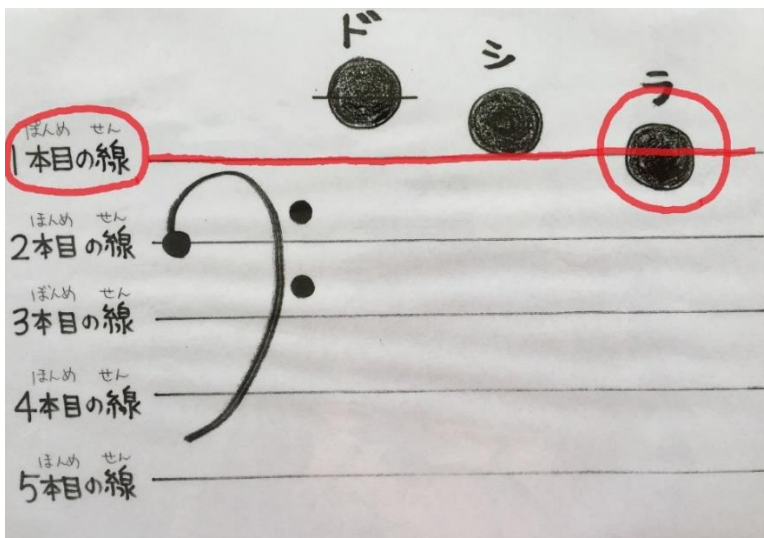
「シの音は、1本目の線の上に乗っかっている音だね」と言います。



「ラ」の説明

●子どもへの説明の仕方

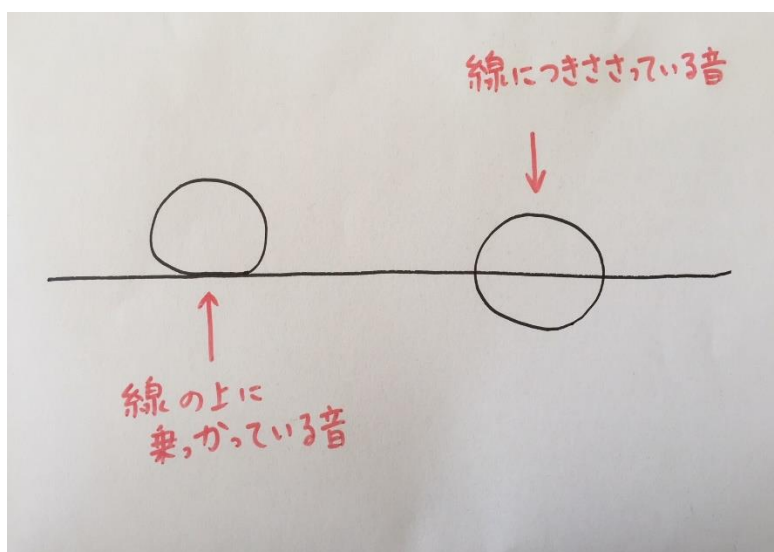
「今度はラだよ。1本目の線につきささっている音だね」と言います。



* 指導のポイント *

音符の教え方は、

線の上に乗っかっている音か、
線につきささっている音かの違いをしつこいぐらい伝えます。



あとへ音記号を読むときは、下にさがって読んでいくことを理解してもらいましょう(^o^)

(「ト音記号は音が上がる、へ音記号は音が下がる」これが分かれば大丈夫です)

これで3回目の音符の教え方は終わりです。

■ Part3 リズムのたたき方指導実践その③

レッスン3回目は、これまでに習った音符を組み合わせせてリズムをたたく勉強をしていきます。

すでに音符の名前、音の長さがわかっている前提でお話ししていきますね(*^_^*)

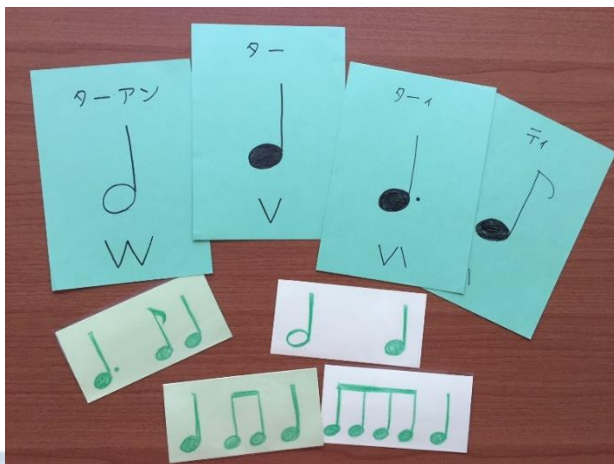
では、「リズムをたたく10分」のレッスン内容を解説していきます。

必要な道具



・「音符のつみき」

(リトミック研究会に所属していたときに購入。非売品。これに似た音符のつみきはこちらです。)



・「リズムカード」

(色画用紙にペンで音符を書いたものです)

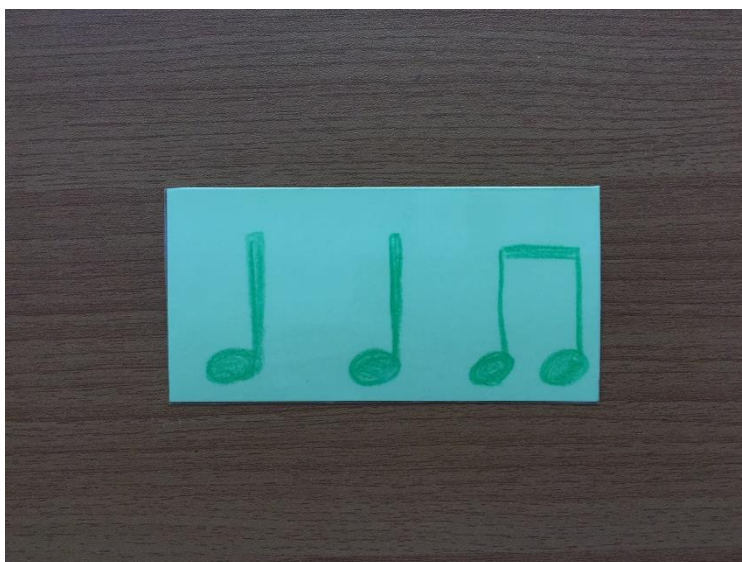
実際の進め方

リズムカードを使う

「リズムカード」を使ってリズムをたたいてきます。

ポイントは、①リズム唱（ターアン ター ティティ）
②拍数（1、2、3 または1、2、3、4）

の2パターンでやっていきましょう。



●子どもへの説明の仕方

・「このカードのリズムをたたいてみようね。最初は、リズム唱でたたいてみよう。リズム唱覚えてるかな？ ター ター ティティ・・・」とやってたたかせます。

・「上手にたたけたね。じゃあ次は拍数でやってみようか。このカードに書いてある音符は全部で何拍あるかな？ そう3拍だね。じゃあ1、2、3と言ってたたいてみようね。いちにい さん」とやらせます。

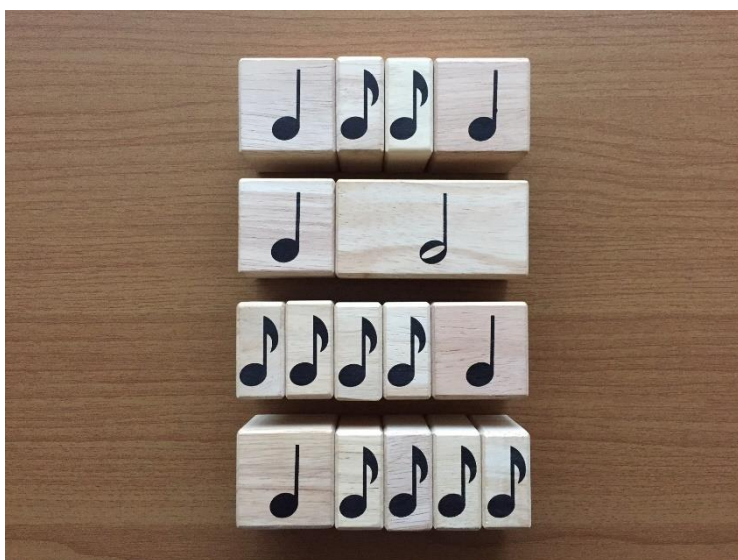
他にも何種類かのリズムカードで同じ要領でやっていきましょう(*^^*)

音符の積み木を使う

今度は子どもが自分で考えたリズムを音符の積み木で作らせ、それをたたいてもらいます（子どもは好きなようにリズムが作れるので楽しんでやります！）。リズムを作ってもらったときに、3拍子と拍数を指定することがポイントです！

●子どもへの説明の仕方

・「じゃあ今度はね、好きなリズムを作ってごらん。ただし、足して3拍になるリズムにしようね」と言います。



・「じゃあ上から順番にたたいていこうね。まずはリズム唱から、次は拍数でたたいてみよう。ターティティター ターターアン」と言います。

参考動画

初心者さん用に撮った動画です。

※下記の動画をクリックすると YouTube に飛びます (7分程度)



リズム打ちは子どもたちみんな大好きなので、楽しくたたいてくれます。

余裕があれば、「休符」を取り入れてやっていきましょう（リズムは休符が入るだけで急に難しくなるので、ぜひ取り入れてみてください）。

これで3回目のリズムの教え方は以上です。

3回目のレッスンが終わりましたね。あとは子どもに、「今日わからなかったところある？」とか「ピアノは楽しい？」とか聞いたりしてコミュニケーションをとってくださいね(*^^*)

■おわりに

これで、第4章の「レッスン3回目の内容」は終わりです。

うまくいったことやできなかったこと、色々な思いがおりかもしれませんが、上手にレッスンができるまでには、たくさんの失敗がつきものです。

失敗の数だけ、上手に教えられるようになると思うので、恐れずにやってみてくださいね (^-^)

また慣れないうちはどうしてもレッスン時間が長くなりがちなのですが、時間までにきちんと終わらせるのも仕事のうちなので、少しずつ要領を得ながらやってみてくださいね。

とは言うものの、新米講師やったころは、いつもレッスン時間が10分ほどオーバーしていました (;^ω^)。 (でも生徒が少なかったこともあり後ろの生徒がいなかったので、のんびりやっていましたよ。たまに子どものお母さんから「いつも長い時間レッスンを見てくださってありがとうございます」とお礼を言われたことも・・・)。

新米講師あるあるですね(笑)。

では、次の章もがんばってやっていきましょう！

■規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopline.shop-pro.jp/?mode=sk>